

新しいことに挑戦しよう！

学 長 竹 葉 剛

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。これから社会に出て行く皆さんに申し上げたいことは、新しいことに挑戦していただきたい、ということです。現在の日本社会は閉塞感があるとか、将来の発展方向が見えないとかと言われていますが、それは明治維新から1世紀半が経過し、他の国や社会のまねをしていれば発展できた時代ではなくなっていることが背景にあります。これからは自分たちで切り開いていく時代です。また、一人の人間としても、自分だからこそできる新しいことに取り組んで初めて、人生の生き甲斐を感じることができます。そこで、卒業する皆さんに、新しいことに挑戦して成功する秘訣を教えましょう。



そのためには、まず(1)最初は人のまねをする必要があります。先輩のまねをして仕事を覚えたり、先人の業績をよく調べて彼らが用いた方法論を身につける必要があります。一通りまねをすると(2)彼らのやり方ではうまくいかないことに気づくようになります。課題を見つけて解決すべき問題を設定する段階です。次に(3)問題を解くために関連する情報を集める必要があります。本を読んだり、いろいろな人から話を聞くことも有効です。そして(4)問題を解くためにどうすればよいか、自分の関心を集中させることです。分かりやすく言えば、寝ても覚めても解決策を求めて集中することが大切です。そうすれば、ある朝起きたとき、解決策が自然に頭に浮かんでいるはずで

それでも解決策が出てこないときには、必要な情報が足りないときですから、気分(視点)を変えて、情報収集の範囲を拡げることが有効です。情報収集と集中のサイクルをくり返していくうちに、解決策は頭(脳の神経回路)が自動的に探してくれます。人の脳は、寝ているときに情報(記憶)間の関連づけを自動的に行ってくれますので、毎日十分な睡眠をとることが大切です。

新しいことには、日常生活のちょっとした工夫から、それまで誰も思いもつかなかったビジネスモデルの発見や、社会の新しい政策体系の策定等に至るまで、いろいろなレベルがあります。また、新しいことを見つけても、それを実際に実行しようとするとなかなか課題が新たに出てきますので、それらの課題を一つ一つ解決していく必要があります。それが新しいことに取り組む際のやり甲斐でもあります。さらに、問題の解決策を得てから実行する代わりに、まず行動を起こしてその中で問題を解決していくなどの変化型もあります。卒業生の皆さんには、一人一人が自分にしかできない新しいことに挑戦して、これからの時代を切り開いていただきたいと思います。皆さんの活躍を期待しています。

目 次

| | | | |
|----------------------|----|--------------------------|----|
| 卒業生に贈ることは..... | 1 | 平成22年度学長表彰者紹介 | 15 |
| 法人理事長・理事、部局長から..... | 2 | 後援会理事長、同窓会長からのメッセージ..... | 16 |
| 担任・卒業生のことは | | 平成22年度京都府公立大学法人 | |
| 文学部・文学研究科..... | 4 | 理事長表彰者紹介..... | 16 |
| 福祉社会学部・公共政策学研究科..... | 7 | 学位(博士)取得者からのメッセージ..... | 17 |
| 人間環境学部..... | 8 | 西安交換教員・派遣院生からのメッセージ..... | 18 |
| 農学部..... | 10 | トピックス..... | 18 |
| 生命環境科学研究科..... | 12 | 就業力育成支援事業について..... | 19 |
| 退職教員からのメッセージ..... | 13 | 学位(博士)取得者一覧、おしらせ..... | 20 |

法人理事長・理事から

「ご卒業おめでとうございます」

京都府公立大学法人理事長 荒巻 禎一

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

新たな門出を迎える皆さんに、こうして言葉を贈れることを心から嬉しく思います。

期待と不安をもって、初めて大学の門をくぐられてから今日まで、皆さんは、この大学で、たくさんのことを学び、経験し、生涯に残る素晴らしい思い出を得られたことでしょうか。

京都府立大学は、決して規模の大きな大学ではありませんが、幸いにもそのことが、学生と教員との距離が近く、行き届いた少人数教育を受けられる環境を育んでいます。皆さんも、数多くの先生方と、大いに意見を交わし、自分のスタイルに合わせて勉学に励むことができたのではないのでしょうか。

府立大学を運営する京都府公立大学法人としても、この府立大学の良き学風を守りつつ、更なる発展と飛躍のために、キャンパスの環境整備や他大学との連携等に取り組んできております。特に京都工芸繊維大学と、府立大学と同様に本法人が運営する京都府立医科大学とは、各大学の施設の共同利用や一般教養の授業の共同化を推し進め、3大学で手を携え、力を合わせて、魅力ある大学づくりを進めてきております。皆さんも、府立大学を越えたより幅広い経験や交流をしていただけたのではないのでしょうか。

これからの人生で辛く厳しい局面にぶつかったとしても、挫けずに、大学時代で学び、得たことを糧に、乗り越えていってください。そして、どうか、いつまでも母校への変わらぬ愛着と様々なご尽力をいただきますようお願いいたします。

出会いとつながりを大切に

京都府公立大学法人 理事 築山 崇
(公共政策学部教授)

「生き辛さ」が現代を語るキーワードのひとつになっています。先の見えない不安、孤独、自己の存在の不確かさなど、現代を生きる私たちは、大きな心理的困難を背負っています。しかしその困難を生み出しているのは、ほかならぬ私たち人間がつくりだした社会です。しかし、一方で私たちは生きていくために必要な術の多くを社会から学びとっています。

このような人間の社会的形成過程を意識的にとらえて、社会に働きかけつつ、自己形成を図る、そんな

な生き方を実現していくこと……。ずいぶん難しいことのように思われるかもしれませんが、日々の生活の中でふりかえりを大切にして、そこにある問題に気づき、誰かと心を通わせて、支えあう関係をつくっていくことができれば、「生き辛さ」を乗り越えていくことはそう難しいことではないと思います。

大事なことは、人間存在への基本的な信頼感です。そして、この信頼感を培うことができるのは、なにより身近な人たちとの日常の何気ないコミュニケーションです。大学時代に結ばれた様々なつながりを財産に、一つひとつの出会いを大切にして、明日からの旅路を歩んでいってください。

部局長から

新たな道を拓く

教務部長 佐上 郁子

ご卒業おめでとうございます。

大学で得た経験を糧に、自分自身に素直に向き合う心を忘れずに、これから始まる新たな未来へ進んでください。たとえ途中で困難なことにあっても、いくつになっても、新たな道は拓けます。時には大望を持って進取果敢に、時には心優しく、自分を信じて歩いてください。

また、学生時代の信頼できる友は、一生の友です。私にも、数少ないですが学生時代からつきあっている友達がいます。それぞれの道を歩み、年に一度くらいしか会えない友達ですが、折にふれともに歩んでいることを身近に感じ、一緒に歳を重ね、かけがえのない存在です。何かあったときに本音で語り合える友達をどうか大切にしてください。

新しい門出に、そしてそれぞれの新たな道を歩む皆様のご活躍を心からお祈りいたします。



母校の応援をよろしく

学生部長 野口 祐子

卒業生の皆様、おめでとうございます。

人生の新たなスタートですね。皆さんが大学生生活の多くの時間を過ごされた下鴨キャンパスには、ゆったりとして親密な時が流れていたことでしょう。少人数のゼミ、ヒマラヤ杉がそびえる構内、時間が止まったようなクラブボックス街、賀茂川と植物園、そんな環境で皆さんは世間の騒々しさから離れて、伸びやかに学問を修め学生生活を送ってきたと思います。これから社会人として生活する人も、研究を継続する人も、新たな環境に入っていくこととなります。そこではこれまでより困難な要求や厳しい評価に直面することがあるかもしれません。そんな時も、どうか目先のことにばかり囚われないで遠くを見やることを忘れないで下さい。本学でじっくり取り組んだ学びの姿勢は必ず社会でも役に立ちます。そして時には立ち止まって大学時代を振り返って見れば、成長した自分が見えてくるはずですよ。私たちは皆さんの可能性を信じています。

ひと言、学生部長としてお願いいたします。皆さんには今後も大学との絆を保って、どうか母校を応援して下さい。これからは卒業生として社会で活躍されることによって、京都府立大学の名を広めてくださることを期待しています。

卒業おめでとうございます

附属図書館長 牛田 一成

企業の採用動向が良化し、楽観的なムードが漂っていた数年前とは打ってかわり厳冬期氷河期とよばれる社会状況になった最中に卒業を迎えられる皆さんは、就活ばかりか職に就かれた後も辛い局面を覚悟しないとイケないかもしれません。世間は、理不尽なことも多いでしょう。

府大生活には、理不尽に感じられることもあったとは思いますが、それでも私たち教員は、せめて大学くらいは理不尽なことがないように、なんとか論理で物事が動くように努めてきました。それが浮世離れと批判される所以でもあります。

理不尽なことに出会ったら、ぜひ府大の構内を思い出して下さい。点々と残る建物跡地は多少無惨な光景を曝してはいますが、立派な樹木がたくさん植栽され、低層の建物と相俟って圧迫感のない伸びやかな空間を作っています。植物園や鴨川の光景も思い出すといいかもしれません。出雲路橋あたりか

ら鴨川右岸に並ぶケヤキ類やコナラの街路樹が、そのまま北山の麓までびっしりと覆い尽くしていた縄文時代を思い浮かべると肩の力が抜けるかも知れません。

そんな素晴らしい環境で過ごされた時間の記憶を大切に、これからの人生をお過ごしください。そして是非、府大を再訪してください。

下鴨キャンパスの整備をお約束します

事務局長 公庄 正夫

御卒業おめでとうございます。

皆様にとって、これまでの小学校、中学校そして高等学校の卒業は、更に次へのステップのためのものであったでしょう。しかし、多くの皆様にとっては、この卒業というのは、まさに社会への出発（たびだち）となると思います。大変厳しい時代での出発ですので、前途は必ずしも洋洋とは行かないかもしれません。しかし、この下鴨の地で学んだことを胸に大いに頑張ってください。

数年経てば、この地も新しい学舎に変わっていることでしょう。そのためにも、私たちは今から新しい教育環境の整備に取り組んでまいります。（遅きに失したかもしれませんが、お許しください。）何年か経って、この地を訪れ「ここで青春時代を過ごしたのだなあ。」と思いをはせることになったとき「ここで学んでよかった。」と思える学舎に整備してまいりたいと考えております。

結びに当たりまして、これからの人生、皆様にとって素晴らしいものになることを祈念して、お祝いの言葉とします。



文学部・文学研究科

起承転結

文学部長・文学研究科長 櫛木 謙周

大学・大学院で学んだ期間は長かったですか、短かったですか。人それぞれだと思いますが、ひとつのまとまったことを成し遂げ、さらにそれに磨きをかけるのに最低限必要な期間として意味があったものだと思います。特に、専門の学問というものに初めて接した学部学生のみなさんにとって、1年、1年がまさに起・承・転・結にあたったのではないのでしょうか。学年暦で毎年同じようなことを繰り返しているようでも、それぞれの年は違った意味をもっており、確実にステップを踏んで、卒業論文という「結」にたどりついた道のりは、大学でしか経験できないものです。今後の人生にとって貴重な財産ですので、是非大切にしてください。

文学部

お元気で

文学科国文学・中国文学専攻担任 小松 謙

いよいよお別れですね。月並みな言い方ですが、皆さんが入学してこられたのがつい最近のような気がします。でもこの四年間で、みんな本当に成長してくれましたね。皆さんは私の誇りです。これだけがんばることができるのであれば、社会に出ても大丈夫、やっつけられるに違いありません。でもくれぐれも無理はしないように。卒論で苦しんでおられた時に、いつも「気楽に」と言ったものですが、これからつらいことがあっても、できるだけ気楽に構えてください。それでも気楽になりきれない時は、いつでも訪ねてきてください。

では、お元気で。心から幸運を祈ります。

卒業を迎えて

文学科国文学・中国文学専攻 M. H

ずっと憧れていた京都府立大学に入学してはや四年。振り返ってみると、思い描いていたよりもずっと多くのことを得た四年間だったと思います。ここで出会った人達——授業外の時間でも熱心にご指導して下さった先生方、演習室で共に長い時間をすごした国中の仲間達、クラブ活動を通して一緒に

成長してきた友人達——との日々は刺激的で、とても充実していました。もちろん悩んだり苦しんだり、投げやりな気持ちになったことも何度もありました。しかし、そのように壁にぶつかったこと、周りに助けられながら乗り越えてきたことは、私の人生の中で大きな支えになるのではないかと思います。

出会った全ての人に、出会いを作ってくれたこの場所に、本当に感謝しています。ありがとうございました。

送る言葉などという柄ではないけれど

文学科西洋文学専攻担任 浅井 学

就職が内定している人達に。もし不満があっても、とりあえずその仕事を頑張ろう。そして、チャンスがあったら転職してステップアップだ。そんなふうにしてとても立派な会社に転職を決めた君らの先輩が、つい先日挨拶に来てくれた（なんだかキラキラして眩しかった）。もちろん、その仕事に生き甲斐を見つけ、ずっと続けるならそれも大いに結構だ。就職の決まらなかった人達に。君らのことが心配だ、とはあえて言わない。卒業してから就職を決めた元ゼミの学生達から毎年のようにメールをもらう。第一この四年間我々のしごきに耐えてきた君たちだ。どんな世間の荒波だって乗りきっていける。だから今日は心の底から言いたい。みんな、卒業おめでとう。

大学生活が与えてくれたもの

文学科西洋文学専攻 Y. N

振り返ってみると本当に長いようであっという間の4年間でした。学校生活・初めての一人暮らし・アルバイトと全てにおいて自分でやらなければならないという中で、大きく成長できた日々だったなと感じます。私にとって大学生活は「人と話し合う」ということでした。大学の友人やバイト仲間、先生たちと多くの人と話す機会を持てたと思います。その中でいろんな人の意見に刺激されて、自分とは違う価値観を知ったり、自分自身を見つめ直したりできました。その全てが今の自分に繋がっています。先生とも生徒同士も密に接することができるこの京都府立大学で学べたことを嬉しく思います。本当にありがとうございました。

新たな一步を踏み出される皆さんへ

史学科担任 上田 純一

卒業おめでとうございます。

皆さんは四月から新たな一步を踏み出されます。新しい環境のもとでは、戸惑うことも多いかと思えます。

それでも、少しずつ、一步一步、前へ進んでみてください。そうすればどんな困難も、いつかは必ず乗り越えることができるはずです。

皆さんへの期待、応援の意を込めて、私の好きな次の言葉を贈ります。

もともと地上に道はない。

歩く人が多くなれば、それが道になる。(魯迅)

「いちばん」

史学科 O. T

私は大学生活に一片の悔いもありません。私は大好きな歴史の勉強をしながら、大学4年間を陸上競技に捧げました。失恋した日でも、練習をすれば忘れられました。それほど陸上が好きでした。ゆえに、強くなりたいと思いました。自分はまだまだ強くなれると信じて競技に取り組みました。そして去年、全国スポーツ祭典で優勝することができました。貪欲に、ひたすらに努力して手に入れた「いちばん」は最高でした。私を信じ、喜びを共有してくれた仲間が存在が本当に心強く、嬉しかったです。毎日が充実していて、楽しくて、あっという間でした。陸上と、支えてくれた仲間・学友・先生方に、ありがとう。

「完成した論文！」

国際文化学科担任 山口 美知代

ご卒業おめでとうございます。晴れのこの日を迎えられることを、心からお喜び申し上げます。担任らしいことはほとんどしていませんが、やはり一番心に残っているのは、最後の一年の卒論作成の日々です。暑い夏の日、題目提出目前の迷いの様子。中間発表での緊張した面持ち。追い込みの日々に廊下ですれちがって声をかけたときの、しんどそうな様子。提出後の晴れ晴れとした笑顔。試問での臨戦態勢など。英語に、A good dissertation is a done dissertation. という表現があります。「完成した論文がよい論文」という意味です。大学で学んだこと

の集大成としてそれぞれが立派に仕上げた「よい卒業論文」に、どうか誇りを持ってくださいね。またお会いしましょう！

府大で学んだ4年間

国際文化学科 O. T

4年前、私はずっと憧れていた京都府立大学で好きなことを学べる喜びでいっぱいでした。少人数の授業やゼミは緊張感があり、院生の先輩方と勉強ができるなど貴重な経験もできました。講読やゼミの発表では、調べても答えが見つけれずに苦労したことや、自分の考えが上手く伝えられずに悩んだこともたくさんありました。しかし、何事にも一生懸命に取り組む仲間の姿を見て、私も最後まで頑張ることができました。

国際文化学科は私たちの学年を最後に閉学科になります。この学科で研究分野の異なる様々な先生方に出会い、分野の枠を超えてたくさんの方を学びました。この府立大学で、国際文化学科で4年間学べたことを誇りに思います。



文学研究科

祝修了。これからもよろしく。

国文学中国文学専攻担任 山崎 福之

博士前期課程を修了された皆さん、おめでとうございます。皆さんが達成された専門的研究成果は修士の学位に恥じない立派なものです。どうか自信を持って、今後のそれぞれの道に向かって力強く歩みを進めて下さい。

近年は経済状況の悪化もあって、「すぐに役立つ研究」、「目に見える成果」ばかりが評価されるようになってしまいました。50年後、100年後の評価にも堪える地道で基礎的な研究、中でも人文学への軽視の風潮は目を覆うばかりです。古典もマンガやバラエティでなければ扱われない時代。でもそれを嘆くだけでなく、乗り越えなければなりません。私たちも頑張ります。これからも府大を応援してください。お元気で。

出会いにあふれて

国文学中国文学専攻 K. M

京都で古典文学を学びたい。国語の先生になりたい。この思いを胸に国中（こくちゅう）へ入学しました。学部での4年、大学院での2年をふりかえってみると、本当に素敵な出会いに溢れていたと思います。

当然のことながら国中には、たくさんの文学作品との出会いがありました。その中でも私が研究した和歌と出会い、和歌を通して日本文学の豊かさや素晴らしさを再確認できたことは、これからの私にとって意味深いことであると確信しています。

そして何より、優しくあたたかく、時に厳しく6年間を見守ってくださった国中の先生方、学問の苦楽はもちろんのこと、大学、大学院生活を一緒に楽しく過ごした友人たち、そして支えてくれた家族に心から感謝しています。ありがとうございました。

「人間を押すのです」

英語英米文学専攻担任 金澤 哲

博士前期課程修了のみなさん、修了おめでとうございます。

はなむけに、漱石が若き龍之介に送った手紙の一節を。

「世の中は根氣の前に頭を下げる事を知つてゐますが、火花の前には一瞬の記憶しか與へて呉れません。うんうん死ぬ迄押すのです。それ丈です。決して相手を拵らへてそれを押しちや不可せん。相手はいくらでも後から後からと出て來ます。さうして吾々を悩ませます。牛は超然として押しに行くのです。何を押すかと聞くなら申します。人間を押すのです。」

どうかお元気で。

新たな日々を前に

英語英米文学専攻 O. Y

「大学に入学できて良かった」。間違いでした。私の場合は学力面で、入ってからが大変でした。

「とりあえず単位取れたらそれで良いよね」。間違いでした。どの授業もおもしろく、「とりあえず」なんて姿勢でいるのはもったいないと感じました。

大変なものと楽しいことが入り混じる中で足掻く

うちに学ぶことの楽しさを知り、気付けば博士前期課程の修了を迎えました。

努力すれば、その先には得るものが必ずある。けれど、何かを得たことで更に努力をしなければならぬ。人生が終わるその瞬間まで、歩む道にゴールなど存在しないのかもしれない。

府大で過ごした日々を胸に、また新たな一歩を踏み出せることができ幸せです。支えてくださった先生方、先輩方、友人たち、そして家族に心から感謝します。

新たな門出にあたり

史学専攻担任 渡邊 伸

史学専攻修士課程修了の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、この間の努力と研究成果とが認められ、学位を授与されました。修士の学位について、仄聞したところによりますと、ヨーロッパの高等教育事業（ERASMUS）では見直しが進められていて、今後、修士号は研究成果よりも一定の研究能力を証明することに重心を置くことが議論されているとのこと。「グローバル化」という標語が簡単にまかり通る昨今の状況からして、今後、現行の制度をどこまで持ちこたえられるのかわかりませんが、万一そのような事態となったとしても、皆さんはたんに研究能力を持つだけでなく、研究成果を評価されたのだという自覚と自負を持っていただきたいと思います。今後のご活躍を期待しております。

かけがえのない財産

史学専攻 O. Y

京都府立大学へ入学してから6年経ちますが、特に修士課程は密度の濃い、とても充実した2年間でした。熊野古道の調査では、古道を歩きへとへとになりながらも広い視野をもって「歴史」を学び、ゼミ合宿では地方の寺院や荘園を回り京都にいただけではわからない「歴史のリアリティ」が体感できました。修士論文を書くさいには、年代を越えた研究室の素敵な仲間、時には励まされ時には議論を重ね、持てる力を出し切ることができました。大学院で学んだこと、得たことは私にとって本当に大きな財産です。この2年間を支えてくれた家族、励ましてくれた仲間、そして何より厳しくも暖かく見守ってくださった先生方に心からの感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。

福祉社会学部・公共政策学研究科

「福祉社会」を求めて！

公共政策学部長・公共政策学研究科長 小沢 修司
(福祉社会学部長・福祉社会学研究科長)

学部、大学院博士前期・後期課程を卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。

学部卒のみなさんは「福祉社会」から始まりましたが途中で後ろから「公共政策」が追っかけてくることになりましたね。でも、学部の理念として「福祉社会を目指す」ことは変わりがなく「公共政策を拓く」がつくことになったわけです。「福祉社会」って何でしょうか？

その問いかけはこれからも変わることはありません。その答えは、物事を狭く捉えることなく広い視野で多面的な問題関心を持ち社会のこと人間のことを考えてこられたみなさんのことです。もうお持ちなのではないでしょうか？ 多様な個性の共生、そしてみんなの幸せと自分の幸せに思いを馳せる、そんな社会を目指しましょう。

福祉社会学部

卒業生へ贈る言葉

福祉社会学科担任 山野 尚美

ご卒業おめでとうございます。

今年度は、福祉社会学部福祉社会学科として学生を送り出す最後の卒業式となり、いつにも増して寂しさが募ります。

みなさんは、すでに成人式をお済ませではありませんが、このご卒業が実質的なおとなとしてのデビューになるのではないのでしょうか。社会でおとなとして求められることは多々ありますが、特に必要なのは「人も自分も大切にす力」と「助けを求め力」ではないかと思えます。

生きてると、どんなにがんばっても自分ではどうにもできないこともあります。そんな時には、努力や我慢だけではなく、弱音を吐いて助けを求めてもいいということを覚えておいてください。ご卒業後も、私たち教員はこれまでと変わらずみなさんのことを案じ、見守っていますよ。

卒業にあたってのメッセージ

福祉社会学科 A. T

大学時代、沢山の人のに出逢ったことは、私の宝物

です。全国各地から集まった、様々な方言を話す友達。一緒に旅行に行ったり、授業を受けたり、相談に乗ってもらったり、楽しい思い出ばかりです。3年間働いたバイト先の社員さんや学校の違う仲間。異なる年齢や立場の人と話すことが楽しかったです。テニスという共通点だけで集まった、尊敬できる先輩と、優しい同級生と、かわいい後輩。私のテニス人生で最も楽しい時でした。そして、児童館で出逢った乳幼児さんとそのお母さん方。毎週癒されました。

そして再発見した宝物、それは家族です。離れて初めてありがたみを感じました。たくさんの人に支えられていることに感謝しながら、これからも頑張っていきたいです。



公共政策学研究科

「公共政策学」を拓く

公共政策学専攻担任 小沢 修司

公共政策学専攻博士前期課程の修了、おめでとうございます。

みなさんが取得された「公共政策学」という学位は3年前に本学が先鞭をつけたのですが、いまや修士で6つ、博士で2つ（本学を含む）にまで増えています。日本中探しても本学以外には見あたらないとは言っておれない状況になってきたのですが、私たちが日本の「公共政策学」をリードする位置にすることに違いありません。これから、公務職場に、あるいは福祉の現場にと研鑽の場は移行することになりますが、2年間の研究で得た「公共政策学」の真価を現場で大いに発揮してください。そして、その成果を私たちにフィードバックしてください。そのことが日本の「公共政策学」を発展させることになるのです。

遊びをせんとや・・・

公共政策学専攻 M. M

大学院での2年間は、学(がく)とは楽(がく)と実

感ずる毎日。他大学では望むべくもない少人数の環境での勉学は、とても刺激的な経験でした。思い切り遊べる、もとい“学べる”環境が嬉しくうきうき読書にも励み、気付けば2年で150冊以上を読めていました。あ～面白かった！

温かく指導いただいた先生方と、入学の機会を与えてくれた職場に深く感謝申し上げます。それから、昔は苦労にも感じた学業を無心を楽しめる力を培ってくれた、私の20年の社会人生活にも。若い皆さん、大学でしか学べないことがあるように、社会に出てこそ身に付くことも多くあります。お楽しみに。

今後は、仕事等を通じて、府大で学んだことを他の誰かのために活かせるように努力したいと思います。

人生の財産

福祉社会学専攻担任 森下 正修

皆さん、博士前期課程の修了おめでとうございます。

学年担任として、他大学から来られた方とは2年間、本学から進学された方とは6年間のお付き合いでした。昔のことをいろいろと思い返していると、時間の流れの速さに驚き、ひとまずお別れとなることに一抹の寂しさをおぼえますが、何よりも皆さんの成長ぶりを喜ばしく思います。

皆さんは本学で多くの経験をし、知識を身につけ、人との絆を得られたことでしょう。それらは「物

のようにわかりやすい形で所有することはできませんが、きっと皆さんの人生を支え、豊かにしてくれる大きな財産になります。今後もそれぞれの進路の中で、そうした「物」以外の財産を大切に、大きくふくらますような生き方をされることを願っています。

府大に感謝をこめて

福祉社会学専攻 T. K

大学院に入りたての頃、すでに社会人になった同級生に会うと、自分が取り残された気がして、焦ったこともありました。そんなとき、指導教員の先生は、「あなたはあなたの道をすすんでいるのだから、自信を持ちなさい」とバシッと背中を押してくださいました。私には、私の道があって、分かれ道に出会ったら私自身が選択する。それを再認識した瞬間でした。研究に関しても、将来に関しても、悩みは尽きないけれど、悩むのもまたよし。そのような贅沢な時間を院生生活では過ごすことができました。そうして、悩んだすえの固有な夢への一步をふみだすときがやってきました。6年間を過ごした府大ともついにお別れです。あたたかく見守ってくださった先生方、やさしくアドバイスしてくださった先輩方、一緒に悩み続けた仲間、そして、院生生活を支えてくれた母親に心から感謝しています。本当にみなさまありがとうございました。

人間環境学部

常に高い志を持って

生命環境科学研究科長 田中 和博
(人間環境学部長・人間環境科学研究科長)
(農学部長・農学研究科長)

ご卒業・ご修了おめでとうございます。

何事にも区切りや節目をつけることが重要ですが、人生の大きな節目の一つを達成されましたことに心からお祝い申し上げます。特に、本学の特徴である少人数教育の中で、学位論文を書き上げられたことは、その過程で飛躍的に成長されたとともに、大きな自信につながったことと思います。これから次の節目に向かって歩まれることとなりますが、現実を現実として受け入れ、そこからの改善を目指して、常に高い志を持って果敢に取り組んでいただきたいと願っております。周到的な準備と努力も必要ですが、幾分か楽観的であることも大切のように思います。皆様のご多幸とご健康を心からお祈りいたします。

贈る言葉

食保健学科担任 富田 圭子

4年間は短かったですか？それとも長かったですか？人生80年と考えると、大学生として過ごされた4年間はたったの5%。しかし、振り返れば5%とは思えないくらい濃密な時間だったのではないのでしょうか。夜遅くまで残って作った給食経営管理実習の試作。何度もダメ出しを出され、作りなおした栄養教育論実習の媒体やお料理。クラス一丸となってひとつのものを作りあげた達成感や充実感、友情の熱さは、卒業してからも心の宝物になると思います。そして、何度ダメ出しをされてもあきらめなかったあなた達は、素晴らしい学生であり、私たちの誇りです。その5%に担任として携わることができて幸せでした。社会に出ても全力で羽ばたいて下さいね。応援しています！

忘れられない4年間

食保健学科 O. A

「人生のうちで、本気で何かに取り組んだ経験は、一生忘れない思い出になる。だから将来、“あの時の自分は本当によく頑張ったなあ”と思えるような経験を若いうちにたくさんしなさい。」

先生のこの言葉通り、私はこの4年間で本当にたくさんの思い出を作ることが出来ました。みっちり詰まったカリキュラム、決して妥協が許されない実習の数々。入学前に想像していたキャンパスライフとは全く違い、息つく間もなく過ぎ去った日々。この4年間で、苦楽を共にしたかけがえのない仲間に出会い、先生方からは物事に取り組む姿勢そのものを教えられました。きっとここで得た素晴らしい出会いや経験は、一生忘れることのない財産になると思います。本当にありがとうございました。



皆さんとの思い出 ～

環境デザイン学科住環境学専攻担任 尾崎 明仁

卒業おめでとうございます。皆さんと過ごして早4年が経ちました。入学直後に、一人ずつ面談したことを昨日のように思い出します。当時の皆さんは、期待と不安を抱いていたことでしょう。その頃と比べると、皆頼もしく、大きく成長されており嬉しく思います。

私は着任1年目で皆さんの担任になり、京都での生活も初めてでした。様々なことに戸惑いを感じながらも、皆さんの明るい笑顔に励まされ、一緒に頑張れたように思います。

大学で得た知識、経験した苦楽、培った友情は、きっと今後の励みになります。好機は準備のできている人だけに与えられると言われます。これからも精進を積み重ねてご活躍されることを期待しています。

皆さんに感謝…。

「ハレ」

環境デザイン学科住環境学専攻 S. T

「あ～、楽しかった。」大学への道すがら、昨日のクラス会のことを振り返ると、大学四年間の思い出がドッと込み上げてくる。思い返せば、大学四年間、

色々なことがあった。課題、サークル、研究、友達との旅行…。合宿の風呂場では、ノボセルまで友達と語りあった。研究室では、涙でキーボードをぬらしたこともあった。楽しかった事も辛かったことも、今では、全部ひっくるめて大切な思い出です。大学で出会った、友人、先輩、後輩、そして、ご指導してくださった先生方と沢山の思い出を共有できたことを心から嬉しく思います。本当にありがとうございます。ふと見上げると今日も京都府立大学の空は晴天です。さあ、明日からも頑張ろう。

モラトリアムは卒業ですよ

環境デザイン学科生活デザイン専攻担任 三橋 俊雄

一人前の社会人になることを猶予されてきた皆さん、とうとう卒業ですね。入学したての春、デザインの「デ」の字も分からない皆さんが、カメラ片手に京都の街中に出て「京都らしさのデザイン」を探し、地図・写真・コメントで1枚のパネルを仕上げ、そのパネルとともに記念の集合写真を撮りましたね。それから4年、皆さんは、ずいぶんたくさんの経験を重ね、友達もつくり、ささやかなチャレンジも試みながら、自分づくりをしてきたことでしょう。気がつけば、半人前でも、デザインの道を歩んでいる自分に気付くはずですよ。

モラトリアムは終わりました。これからは、自分の足で歩き、自分で能力を磨き、自分の責任で社会にはばたいていかなければなりません。でも、忘れないで下さい。この大学で学んだことを、この大学にいた誇りを。

卒業を前に。

環境デザイン学科生活デザイン専攻 G. E

あっという間の4年間だったけれど、その間多くの経験を積むことができた。4年前の自分と比べて具体的に何か成長した、という自覚は無いのだけれど、多くの「気づき」を得ることができたのは確かだ。時には友人の一言から、時にはネットやTVから、時には本の一節から…自身の中にある点と点が、あることを契機に結びつき、新しい気づきとして現れる。

私が4年の間心掛けたことは、自分自身で体験することだ。自ら体験したことがなければ、新たな気づきを得ることはできない。だからこそ、身をもって体感することを心掛けたのだ。するとどんどん世



界が広がって行く。私はその感動を知った。

今、私はやっとスタートラインに立つことができたと感じる。遅すぎるのではないかと焦りと、希望に満ちた晴れやかな思いが入り交じっている。

卒業生の皆さんへ

環境情報学科担任 田伏 正佳

ご卒業おめでとうございます。早いもので、皆さんが入学してからもう4年が過ぎたのです。4年間の大学生活は充実したものだったでしょうか。勉強やクラブやバイトにと忙しい日々を過ごし、最後は4年間の集大成である卒業研究を成し遂げました。特に、卒業研究では自らの力で問題を解決する能力を身につけたことでしょうか。日々の努力が報われ、目標を達成した充実感を感じていると思います。これらの経験は今後の人生において非常に役立つ経験であったと思います。

環境情報学科としては最後の卒業生となりました

が、本学科を卒業できたことを誇りとし、これからの人生をがんばってください。皆さんがいろいろな方面で活躍することを楽しみにしています。

卒業にあたってのメッセージ

環境情報学科 K. K

大学生生活の4年間は私にとってかけがいのない4年間でした。振り返ってみると、研究室では先生や研究室の諸先輩方、サークル活動では同回生、先輩、後輩、OB と多くの方に支えられてきたなど感じています。研究室では、物事に取り組む姿勢・考え方を、サークル活動では、コミュニケーション力とチームワーク力を学ぶことができました。

そんな中、ともに喜びを分かち合うことの出来る友人もたくさんでき、たいへん充実した大学生活を送ることも出来ました。

この4年間のさまざまな経験を通して、自分自身、人として一歩成長できたように思います。大学生活で獲得した経験を自身の糧にし、これからの人生の中で生かしていきたいと思っています。

農学部

大学の森からの旅立ち

生命環境学部附属演習林長 池田 武文

府大林科の学生として過ごした4年間はどうか？その間、何回演習林に足を運びましたか？森林・自然に関する話題が当たり前のように、連日あちらこちらで語られている昨今、さてどれだけの人がしっかりと森林・自然にじかに接し、勉強しているのでしょうか。皆さんの多くが、系統的な勉強のために初めて接した森林・自然が府大演習林でした。皆さんは演習林から、知識だけではなく、身体を使って様々なことを学んだことでしょうか。身体で学び取ったことからは、一生わすれることはありません。これから様々な分野へ羽ばたく皆さんの将来にとって、いつか必ずや演習林での経験が皆さんを支えてくれるでしょう。卒業、修了おめでとう。

「最初の一步」

生命環境学部附属農場長 三野 眞布

精華農場の畑や水田や果樹園を眺めると、これが1万年前に人類が始めた農耕の現在の姿なのだと感じ入る。同時に、その時の農耕はどうだったのだろうと思い、さらに一体どのような人物が始めたのだら

うと想像が発展する。その人物はきっと周囲の植物を飽きずに眺め、「こちらが大きな実をつけるぞ」などと考えていたのだろう。今ではその人物を知り得ないが、確実なことは、彼女（ら）あるいは彼（ら）は間違いなく「最初の一步」を踏み出したことである。その「一步」がなければ今の農業は少し違っていただかもしれない。

卒業される皆さんは、実社会で「最初の一步」を踏み出します。その「一步」が世界に大きく影響をすることを想像してみてください。「一步」の踏み出しにはちょっとした勇気があれば充分です。



記問の学

生物生産科学科担任 石井 孝昭

「礼記」（らいき）という経書には「記問の学象牙の塔の赤錆」という教えが記されています。この教えは、知識を蓄え、学問・技芸を身につけたとしても、実生活に活用できなかつたり、自分自身の独創的な思考に役立てることができなければ、ただの博学多識であることを意味しています。新たな道へ向かって歩む諸君にとって、中高校・大学受験、就職試験など、その多くが暗記するだけの知識の獲得に終始した生活から、これからは身につけた学問・技

芸を活用して得られた知恵や技を自らの生活に活かしていくときと言えるでしょう。学ぶ心の境地である「遊」を獲得していただきたいと願っています。

4年間を振り返って

生物生産科学科 S. I

多くの出会いがこの4年間にありました。

学科には将来を語り合える友人がいました。クラブには尊敬できる先輩や優秀な後輩がいました。体育会には苦勞を分かち合う仲間がいました。研究室には教授して下さる先生方や先輩がいました。

また私は実家暮らしだったため、母にもお世話になりました。こうして大学生生活を振り返ってみると、私は本当に多くの方々を支えられてきたと思います。そしてそのような出会いを経験できたことは誇りに思えることだと思います。

卒業するにあたり、出会った方々と離れることに寂しさはあります。しかしこうして新たな道を歩む今、再び会うときに胸を張って会えるよう、気持ちを込めて私は第一歩を踏み出したい。

心に残る瞬間を一つ一つ大切に

森林科学科担任 田中 和博

ご卒業おめでとうございます。

この4年間、担任としてあなた達を見守ってきました。卒業論文提出日のことです。受付早々に提出した人はどこか得意気でした。締切間際に提出した人が多かったのですが、彼らは非常に嬉しそうで、達成感に満ちあふれていました。提出後も私の研究室の近くで皆で楽しそうにしていましたね。まばゆく輝いて見えた瞬間でした。しばらくすると誰もいなくなって静まりかえり、皆さんが巣立っていくことを実感しました。これからの人生にはきらめく瞬間や、いとおいしい瞬間が何回か訪れます。そうした心に残る瞬間を一つ一つ大切にしていける豊かな人生を送って下さい。皆様のご多幸とご健康を心からお祈りいたします。

最も穏やかで、充実した日々

森林科学科 T. A

「海外から帰ってきた時、京都の山を見ると安心するんです！」

推薦入試の面接でそう言ったときの、面接官の先生方の「フン」という笑いが忘れられません。「お

うこいつ、おもしろいこと言うやないか」の笑いだったのか、「小娘が、何を言っておるのか」の笑いだったのかは不明ですが、今でもその思いは変わりません。京都という地に密接した研究を行う本学で4年間学ぶことができ、本当に幸せでした。

入学当初に思い描いていたことを全て実行できたわけではありませんが、この大学生活の中で貴重な体験をし、親友と呼べる友達にも出会いました。私の22年間の人生の中で、最も穏やかで、最も充実した日々がここにはありました。

4年間私を支えてくださった全ての方に、心より御礼申し上げます。皆様の未来が輝けるものでありますように。

一歩踏み出す勇気をもって

生物資源化学科担任 佐藤 茂

皆さんは、大学の4年間決められたカリキュラムに従って勉学をしてきました。卒論研究でも、テーマの選定から研究の進め方まで8割方は、教員の指導によります。農学部卒業生の半数は社会に出、半数は大学院に進みます。社会に出る皆さんは、自分で考え、方向を決め、結果に責任を持つ場面が待ち構えています。大学院に進む皆さんにも、今後は教員の指導の割合は5割位と考え、自らの能力を磨き個性をいかした研究が求められます。いろいろな困難な状況や思いどおりにならないことは誰の人生にもあるものです。それはどんな時代でもかわりません。失敗はあたりまえ、失敗も夢にむかっただの経験と考え、迷ったときは一歩踏み出す勇気をもって果敢にチャレンジしてほしいと思います。卒業おめでとう。

四年間を振り返って

生物資源化学科 G. F

大学生生活を振り返ってみると、多くの人々に出会い、人として成長させてもらった四年間であったと感じています。特に、研究室に配属されてからは、先生との距離が近く、直接様々なことを学べる機会に恵まれました。卒業を目の前にして、非常に有意義な時間を過ごすことができたと思える大学生活を送れたことは、大変幸せなことであり、貴重な経験であったと思います。この四年間で得られた経験を糧にして、今後の生活の中で活かしていきたいと思えます。

最後となりますが、これまで私に関わってくれた全ての人々、大学に進学させてくれた両親に感謝の意を表したいと思います。

「本当にありがとうございました」

生命環境科学研究科

Enjoy

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 専攻長 佐藤 健司

修了おめでとう。本専攻では修士論文の発表会を専攻全体で行いました。多くの参加者の前で発表するのは大変良い経験になったと思います。中には想定してないような質問や、全く別の観点からの質問もあり、返答に窮した方もいると思います。同じ専攻でも参加者により観点はかなり異なります。今後、もっと異なる観点の方々に自分の考えを発信する機会があると思います。異なる観点が必ず存在することを理解した上で自分の考えを少しずつ持っていたきたいと思います。また修士論文の取りまとめ・発表にはかなりの時間を使い、非常な努力をなされたと思います。その事には心から敬意を表します。

しかし、一つ覚えていていただきたい事は1つの事に向け努力できることは、決して当たり前の事ではないという事です。努力できた幸せを忘れず、Enjoy! また会いましょう。

実践することの難しさ

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 M. R

博士前期課程入学後、友人、先輩、後輩、先生方そして家族に支えられ、前進・後退を繰り返しながらも、少しずつ成長することができました。この2年間では学部生以上に考え抜くことが要求されていたように思います。また、物事を思い切って全く違った視点から見ることの大切さを身に染みて感じました。特に2回の昆虫学会での発表や修士論文を作成する過程でこのことを強く感じました。今思えば貴重な体験をさせて頂いたものです。言うは易し、おこなうは難しとは実に上手い言葉だと思います。実践しようにも実践できなかつたことが数多くあった2年間でしたが、その間に得たものを思い起こし、今後の糧として活用していこうと決心した次第です。

卒業生への贈る言葉

生命環境科学研究科環境科学専攻 専攻長 大場 修

博士前期の2年間はまったく短く感じられたことと思いますが、皆さんの修士研究の成果はどれも第一線級の立派なものでした。研究水準の高い京都府

立大学大学院で修士の学位が授与されたことを、まずはどうか大きな自信として下さい。

さらに皆さんは、2年間を通して各人の研究テーマに関わるバックグラウンドや周辺状況についてもさまざまに学ばれたことと思います。研究テーマ自体は限定的なものです。得られた研究成果の足下には専門分野の大きな広がりがあります。その裾野をしっかりと理解できていないと、皆さんが獲得したオリジナルな成果も意義づけることが出来ません。もとより自分の研究のことしか話が出来ないような狭いことでは困ります。

専門分野に対する「見識」がこれからは問われるのです。見識を養うにはどうするのか。調査で森林や里山、集落や町を歩き回り、あるいは多くの人との出会いの中で直接に体感したことが、その土台となります。

研究は、得られた成果もさることながら、取り組んだプロセスの中で得られることの方が実は大きいのです。でも、このことに気づくには少し時間が必要です。これからのご活躍を祈念しています。

人との出会い

生命環境科学研究科環境科学専攻 K. T

今までの6年間の大学生活の中で、クラブ・サークル、短期留学、学会発表など様々なことを経験させていただきました。その中で、同世代の人だけでなく、多くの世代の異なる人にも出会い、様々な考え方や意見に触れてきました。そのおかげで、私は大学入学前の自分とは異なり、自分なりの考え方や価値観をもつことができるようになったと感じています。このことが、自分の6年間の大学生活の中で得られた貴重な財産であると思います。

今、大学卒業という形で一つの区切りをつけることとなりますが、卒業後も多くの人と出会うことになるはずで。私はこれからも一つ一つの出会いを大切にしながら、自分の考え方や価値観を磨き続けたいと思います。





退職教員からのメッセージ



故郷は遠きにありて……学生への万謝の言

文学部国際文化学科 岡村 眞紀子

ここ洛北の地に赴任してから33年の歳月が流れました。それまでの年月を越える年月をここで過ごしたことになります。最初は女子短期大学の教養の一員として。10年余りを経て、女子短期大学のさらなる発展を願って英語科が構想されました。新しい教員と新しい学生たちを迎えて、次の時代が開けていくはずでしたが、発足と同時に、京都府立大学での新学部構想の議論が始まりました。希望をもって学生たちと共に、新たな英語科で学んだのもひとときの輝きでした。

新構想のなかで、女子短期大学部は閉学を迎え、英語科は国語科とともに、国際文化学科として、次の世界を文学部に構想しました。必ずみんなの為に事々を引き継ぐからと英語科と国語科の学生たちに約束して発足した国際文化学科。それから14年、大学院生と合わせて300名弱の学生たちは大学生らしい輝きと知性をもって研鑽を積み、時には友と一つになってエレベーター設置要請に取り組み、時には孤独な論文執筆の作業に沈潜し、恐らく時には街にも野にも遊び、世界に巣立っていきました。閉学科が決まり、何故自分たちの学科なのかと問うたその学生たちの、凜と立ち、勉学、卒論に打ち込む姿に、支えられ励まされて今日の日を迎えたのは私の方でした。最初で最後の職場は、まさに故郷、遠きにありて想ふべき故郷となりました。

私が学生たちと打ち込んできた国際文化学科欧米文化の思想・文化の分野は、閉学科と同時に京都府立大学から跡形もなく姿を消しますが、学外に、世界に、学生たちがその芽を育て、花咲かせてくれると思えば、これに勝るものはなく、未来を信じるにたるものと確信できます。短大、英語科、国際文化学科の卒業生たち、学生たち、これほどの力と幸せをありがとう。

そしてやはり最後はこの言葉しかありません。あなたたちの学科を守れなくて、本当に本当にごめんなさい。

ただ感謝あるのみ

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 市原 謙一

バイオという用語はなぜか好きになれませんが、その用語がまだほとんど使われていなかった1970

年代に、その領域の基礎学問である生化学の中にあって、脂質という当時マイナーな研究対象に足を踏み入れました。今では脂質がさまざまな細胞の営みにダイナミックに関わっていることがわかってきていますが、当時は体のエネルギー源と細胞膜の成分くらいにしか認識されていませんでした。そのころはタンパク質と酵素の研究が全盛であり、その後核酸と遺伝子の研究が興隆して、多くの研究者がその分野に集まりました。脂質や糖質の重要性が認識されるようになってきた現在でも、脂質分野の研究者の数はタンパク質や遺伝子を扱う研究者に比べると格段に少ない状態です。しかし、そういう分野だからこそ私ごとき能力のものでも何とか研究者として食いつないでこられたと思っています。ずば抜けて優秀な研究者がひしめいているタンパク質や遺伝子領域などでは、とても競争するだけの自信はありません。また教員としての立場では、授業にはかなり気合いを入れて取り組んできたつもりですが、意欲が空回りしていたくらいが多分にあったと反省しています。何しろ自分が高校生の頃には、医者と教師には絶対ならないと確信していたくらいですので、人を教えることはまことに畏れ多いことでした。

このようなことで、府大での教育と研究に対して力不足であったことは如何ともしがたいことですが、一方で自分なりに持っている力は発揮できたと満足しています。ありがとうございました。

府立大学での37年間

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 永田 寛

昭和49年4月に京都府立大学女子短期大学部に赴任して以来37年目の春を迎えるにあたり、いよいよ退職することになりました。夢のように過ぎ去った気がします。

本学では、女子短期大学部被服科を振り出しに同学部に23年、人間環境学部環境情報学科に11年、生命環境科学研究科応用生命科学専攻に3年間在職しました。まさしく、本学は私の人生そのものです。短大時代は学生の卒論や院生の研究指導などはなく、学生とは授業で接するだけでした。平成9年に生活科学部を改組して人間環境学部が新たに発足してその環境情報学科に所属することになりました。その後、初めて卒論指導や院生の研究指導を担当したときは、本当に大学の教員になってよかったと最高の幸せと充実感を味わうことができました。そのおかげで研究も飛躍的に前進させることができました。

府立大学では、学生の教育や研究についてはほと

んど何の制約もなく、本当に自由に好きなようにやることができました。退職するにあたり、在職中に私どもが発表した論文の被引用回数を調べたところ775回でした（Web of Science, 2010年3月）。繊維化学や高分子化学の発展に少しでも貢献できたのではないかと考えています。専門分野の繊維化学、高分子化学の研究を終始続けられたのも自由を尊ぶ府立大学だったからだと思います。

しかし、最近では、法人化され、教員の業績評価が導入されるなど大学の教員にとって最も大切なことであるこの教育や研究の自由が奪われつつあるように思われます。しかし、皆様におかれましては必ずこれを克服されることを信じています。これからも府立大学から多くの優れた研究成果が出ることを期待しています。

京都府立大学を退職するにあたって

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 山田 秀和

府立大学には、昭和41年4月の農学部農芸化学科入学から昭和47年3月の大学院修士課程修了までの6年間を学生として、昭和50年1月から現在までの36年間を教員として、計42年間を過ごさせて頂いた。府立大学で人生の三分の二を過ごす幸運に恵まれた。この間、多くの職員と教員にお世話になり、優秀な学生に囲まれて、充実した大学生活を過ごすことができた。

昭和40年代前半の府立大学は、学内に木造学舎も散在する牧歌的なキャンパスであった。研究予算は乏しく、図書館は古色蒼然、他大学と比べると見劣りするところもずいぶん多かったが、職員・教員・学生は大らかで、乏しい研究費を手作りの装置で補い、図書館資料の乏しさは思索を深めることで対応していたように思う。そんな時代から現在の府立大学はずいぶん進展したとしみじみと思う。

昨今は研究にも資金獲得もあり競争原理が強く働いている。しかし、競争は類似の研究内容について行われるのが普通で、こうした研究の多くは短絡的で長期的見通しの乏しいものが多いように思う。大学での研究は、企業での研究とは異なり、基礎の原理や法則の解明が第一目標であり、大学では数十年先を見据えた長期の研究が求められていると思う。長期的な視野・視点を持つ研究に必要なものは大学の規模ではなく大学の個性であろう。規模は小さくとも魅力的な個性を持ち独創的な研究を生み出す、そんな京都府立大学を目指して欲しい。

府立大学の皆さんに、そして私を支えて頂き自由に研究する機会を与えて頂いた本学名誉教授の服部共生先生と米林甲陽先生に、心からお礼申し上げます

す。有り難うございました。

定年を迎えて

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 吉安 裕

本学農学部助手として赴任した時、挨拶のため最初に学部事務長に同行いただいたのは、現在の合同講義室棟のところにあった木造2階建の旧事務室棟であった。1978年8月1日で、京都特有の蒸暑い日であったことを覚えている。それから32年余、私自身の問題で何回かの転機をもちつつも、応用昆虫学研究室で長くお世話になってきた。その間、私は主に農作物害虫が含まれる鱗翅類（ガとチョウ類）や絶滅が危惧される水生昆虫類の分類と生態の研究に携わってきたが、必ずしも十分な成果を挙げてこられなかった。研究室の先生方に対して申し訳なく思っている。さらに、フィリピンの国際イネ研究所に1年間、東南アジアでの鱗翅類調査に通算6か月、そのほか外国での標本調査等のため何度か研究室を留守させていただくことも多かった。歴史の長い研究室にはそれまでの先生方とそのときの研究室の先生方のゆるぎない教育実践と十分な業績の積み重ねがあり、私のわがままを大きな目でみていただけたからと今では考えている。しかし、私の定年前の4年間に、プロジェクト研究として、京都府を含め外部の研究機関の方々や研究室の学生の皆さんとともに、茶の新害虫の防除に関わる研究と調査に携わることができたのは幸いであった。この研究では、害虫コナジラミ（半翅類）の新種の記載にも関わることができた。まさに研究室の方針と役割の一端が反映された内容であったと思う。一方では、私は、赴任前からの、そして赴任後のたいへん優秀な卒業生に恵まれ、多方面で大いに助けられたことを思い出す。また、今でもそれらの方々と一緒に研究と活動をさせていただいている。これらすべての皆様のおかげでこの度何とか私も卒業することができそうである。お世話いただき、励ましていただいた先生方と卒業生の皆様には厚くお礼申し上げます。さらに、この後も、よき伝統をうけついで本研究室と府立大学の新たな発展があることを願っている。



人と緑に恵まれた14年間

生命環境科学研究科環境科学専攻 下村 孝

府大着任1年後に得た4号館3階の研究室は、3方に窓があり、北の窓から、イチョウやクスなどの枝葉を通して、北山と比叡山が見える。また、南の窓の外からは、校章にイメージを映すカツラの老木が季節を告げてくれる。教育哲学者、O.F.ボルノーは、人が安らぎを得るためには、その住まいする空間を包み守ってくれる力に対する信頼的な関わり方が必要であると述べている。四季の移ろいを見せながら、野鳥を受け入れて年を重ねる窓外の緑は、私の信頼を受け入れて、限りない安らぎと癒しを与えてくれた。そして、ランドスケープ学の教育と研究に関わり、身近な緑の役割や都市緑化の意義とあり方を考える上でも、大いなる示唆を与え続けてくれた。



これまで14年間に、授業や卒論、修論そしてD論の指導の中で関わってきた学生諸氏は、素直でありながら、高い能力を備えていた。彼ら、彼女らとの付き合いが、私の視野を拡げてくれ、京都の暮らしと自然に関わる多様なテーマで論文をまとめることができた。丹後の緑資源探しから、歴史的風景の残る京都での屋上緑化のあり方、街路樹下の植物栽培、町家の前栽・坪庭の役割、そして、室内で利用される植物の役割など、住居・建築系学科の中でのランドスケープ学のあり方を、私なりに整理できた。それには、それぞれの分野で秀でた業績を蓄積してきた環境デザイン学科教員諸氏からの示唆と刺激に依るところが大きい。また、組合行事への参加は、他学部教員や職員の皆さんとの距離感を縮める上で有益であった。活動そのものでは、あまりお役に立てなかったが。

定年で消え去るはずが、特任教員としての猶予を

公共政策学部公共政策学科の佐野巨先生、生命環境科学研究科環境科学専攻の森理恵先生が退職されます。長年の間、学生の教育や研究などの発展にご尽力いただき、本当にありがとうございました。

与えられた。府立大学に貢献できる1年間にしたい。

「感謝の気持ち」

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 富田 圭子

私の所属は生命環境学部食保健学科ですが、本学科のカリキュラムにはたくさんの実習が組み込まれています。その中で、給食経営管理実習と栄養教育論実習は学生指導にたっぷり時間を必要とし、授業時間外に指導することの多い授業となっています。よって、教員は学生と夜遅くまでのこり、料理の試作を評価したり、栄養教育媒体を作り上げたりと、学生と共に沢山の試練の時間を過ごします。しかし、連日学生の指導をする中で、学生の成長を目の当たりにし、教員冥利に尽きる感動を何度も味わうことが出来ました。この体験は、私にとって教員としてのモチベーションを確固たるものにした体験であり、こういった経験をさせていただけたことに、この場をお借りして感謝の意を表したいと思います。

また、日々の学生との関わりの中で、彼らの素朴さ、純粋さ、聡明さを強く感じましたが、何よりすばらしいと感じたのは、彼らが何事に対してもあきらめない「粘り強さ」と、京都らしい「和を尊ぶ優しさ」をもっていたことでした。こういった府大生の資質は、京都で過ごした私の生活を時には励まし、和ませてくれました。教員として何より幸せな境遇でした。

さらに、私が所属していた食事学研究室での9年間は楽しい研究をたくさんさせていただきました。本研究室は、人々がより高いQOL、ADLをもてるようにするには何をどう食べればよいかを研究しており、研究テーマも広範囲。そんな中で食べるとは？生きるとは？おいしいとは？幸せとは？色々なことを考える機会をいただきました。

教員としても研究者としても、充実した9年でした。本当にありがとうございました。皆さんのこれからのご健康とご発展を心よりお祈り申し上げます。

平成22年度 学長表彰者紹介

◆食保健学科京都米(高見 真)チーム(高見 真さん 入江 静夏さん 和田 恵梨さん)

(生命環境学部食保健学科3回生)

(社)京都府米食推進協会が実施している提案事業において京都米を使った献立「京丹後コロッケプレート」やマスコットキャラクター「まいこちゃん」の提案が最優秀の特選に選ばれた。

◆松田 千怜さん(生命環境科学研究科環境科学専攻 平成21年度修了生)

日本建築学会において修士論文「大気-植栽-土壌連成系の熱・水分・空気複合移動に関する研究」が「優秀修士論文賞」(環境部門)を受賞した。

◆東 恵理子さん(生命環境科学研究科応用生命科学専攻博士前期課程2回生)

東さんの発表演題「新機能を指向した超分子ゲルの創製と構造解析」が、第464回日本農芸化学会関西支部講演会で、優秀な口頭発表に与えられる若手優秀発表賞を受賞した。

後援会理事長・同窓会長からのメッセージ

ご挨拶

後援会理事長 原田 研一

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは長い学びの時を終えられ、今、社会人として、その第一歩を踏み出そうとしておられます。ご承知のように今日、日本の社会、経済は決して順風満帆とは申せません。国際化の波にもまれ、人としての価値観が揺らいでいます。しかし、そんな時代だからこそ、皆さんのような若くて逞しい人材が、求められているのではないのでしょうか。むしろ大きなチャンスが皆さんを待ち受けているとも申せましょう。皆さんは、この府立大学という充実した環境の中で培われた、知識や経験を大いに活かし、高い誇りと先取の気概を持って、大いに活躍していただきたいと願っています。大学の値打ちというのは、どんなに素晴らしい設備が整っていても、優秀な先生方に恵まれていても、それだけでは評価されません。卒業生がどれだけ世の中で活躍し、社会に貢献しているかということが、その大学の価値を高めるのです。

京都府立大学は皆さんの母校です。母校ほどありがたいものはありません。必ずそう思う時があります。私たちも、誇らしい気持ちと万感の思いをこめて見守っています。皆さんの奮闘を心から期待しております。



未来を自ら切り開こう

同窓会長 浦上 弘幸

卒業生ならびに修了生の皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

皆さんはこれまでの人生の中で沢山のことを学び、身に付け、さらに体験により自信を付けられ、今ではベテランと呼ばれている方も多いことと思います。しかし、これから飛び込む世界では、ピカピカの1年生ですね。最初は、知らないために思い通りにいかないで落ち込むこともあると思いますが、この「何も知らないこと」を恥じるのではなく、自覚しながら、大いに武器にしていきたいのです。いま日本では「不況」や「就職難」などが話題になっていますが、そのような中で困習に捉われるあまり新しいことに挑戦する気概が削がれ、研究や開発などの分野でも世界から遅れつつあるように思われます。皆さんが先輩の意見や教えを素直に聞くことは言うまでもないことですが、慣例や前例にとらわれ過ぎて現状に甘んじ、新しいことに挑戦する気概がなくなれば、これからの厳しい世界を競争で生き残っていくことは難しいでしょう。皆さんはこれまでに培われてきたすべてを傾けて、未来を自ら切り開いていただき、若さを武器にそれぞれのところで大いに貢献していただきたいと願っています。

最後になりましたが、皆さんの益々の健康と活躍を心から祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



平成22年度 京都府公立大学法人理事長表彰者紹介

- ◆辻 晶子さん（生命環境科学研究科環境科学専攻博士前期課程1回生）
日本建築学会において卒業論文「近世末期下鴨神社における社家町を含む周辺地域の構成」が「優秀卒業論文賞」（計画部門）を受賞した。
- ◆宮岡 良衣さん（生命環境科学研究科環境科学専攻博士前期課程1回生）
日本建築家協会が主催する全国学生卒業設計コンクール2010において審査員特別賞を受賞した。
- ◆映画制作部 スタジオサンダル（代表 杉浦 衣美佳さん 部員13名）
テレビ朝日「Vドリーム」朝日放送大会に出品した映像作品「走ってハッピー」が地方グランプリを受賞するとともに全国コンテスト決勝大会に出場した。
- ◆西田 将也さん（文学部史学科4回生）
京都府警が平成21年に創設した京都学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」の初代代表。本人は、（社）京都青年会議所主催の第7回京都学生人間力大賞準グランプリ及び優秀賞（まちづくり部門）を、ロックモンキーズは、平成22年安全・安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰を受賞した。

博士學位取得者からのメッセージ

私の府大生活

文学研究科国文学中国文学専攻 O. A

私は前世紀が終わる直前に京都府立大学に入学しました。そして博士後期課程を単位取得退学のうち、現在は府大で非常勤講師として働きながら研究を続けています。修士課程では外部の大学院に進学し、また留学のため日本を離れた時期もありましたが、その間も府大の先生方には常にお世話になり続け、府大の大学院に進んだ友人たちとの縁も切れることがありませんでした。

府大は地味で小ぶりな大学ではありますが、穏やかな気風と、落ち着いて勉強に取り組める雰囲気が変わらぬ魅力だと思います。他大学の大学院生が府大を訪れた時、植物園と隣り合い、傍を鴨川が流れる環境にいたく感激していたことも思い出します。なかなか論文の書けない私を辛抱強く指導して下さいました先生方や、学友たちへの感謝をもって、博士号取得という一つの大きな節目に向き合いたいと思います。

私の博士課程

人間環境科学研究科食環境科学専攻 M. M

大学院での研究生生活は順風にあっては刺激に満ち、やりがいを感じさせてくれましたが、実験が進まず体力的に苦しいときは、これだけやっているのになぜうまくいかないのかと焦り、途方に暮れることもありました。

そんなとき思い浮かべたのは、ある高僧の教えです。「自然は立派である。真理を黙って実行する。誰に褒められるということも思わないし、これだけのことをしたら、これだけの報酬がもらえるということもない。時がきたならばちゃんと花が咲き、すべきことをして黙って去っていく。」

頭のなかでいろいろ考えて不安になるよりも、いま自分に出来ることをして、日々の課題をこなすことが大切なのだ。そう自分に言い聞かせて、なんとか研究を完成させることができたように思います。

3年間を振り返って思い出すのは先生や友人たちの言葉です。数々の励ましや助言がなければ、到底やり遂げられませんでした。この場を借りて、東あかね先生、坂根直樹先生、健康科学研究室の皆様へ感謝を申し上げます。

Return to K P U

人間環境科学研究科生活環境科学専攻 Y. T

府大と私の関係は30年を超える。生活科学部住居学科に入学して以来だ。

4回生のとき初めてゼミで民家を調査した。夏の茅葺き民家の小屋裏はサウナ状態で、汗がぼとぼと落ちた。調査後はいつも飲み会。当時のゼミの先生はワイン通だったので、学生たちも自然にワイン好きになった。卒業後はリフォームの会社に就職したが、先生と現役のゼミ生たちとの飲み会に定期的に誘っていただいた。おかげで卒業してからも府大はいつも身近にあった。会社を退職し、青年海外協力隊として勤務した後、再び勉強したくなり、馴染みの先生の研究室のドアをたたいた。飲み会はビールになったが、社会人経験後の修士課程での研究はとても楽しかった。修了後は短大の教員として勤務するかたわら、再び博士後期課程に入学した。年齢差はあっても志を同じくする学生との議論は大いに刺激になった。この度やっと学位取得。長い間学ばせていただいた府大には本当に感謝している。

博士學位取得にあたって

生命環境科学研究科環境科学専攻 H. S

2003年4月に入学し、8年が経過しました。そして、研究者の卵として2011年3月に学位授与式を迎えます。

研究室に配属され、実際に卒業研究に取り組むまでは、「研究」というものが、具体的にどのように行っていくものなのか、イメージできていませんでした。その私が、博士後期課程まで、研究を続けられてきたのには、自分の相性以外に、研究に取り組む環境が大きく影響したと感じています。ゼミ生の研究に取り組むモチベーションの高さや相互協同、先生方の的確で厳しいながらも励まされるご指導、家族の理解と協力、全てに支えられて、「研究」への意欲を高め、学生としての集大成である博士論文を自分なりに仕上げることができました。

京都府立大学で蓄積した研究活動を土台として、これからも研究を続けていきたいと思っています。まだまだ学ぶべき点が多くありますが、将来は、自らが、学生に刺激を与えられるような研究者になりたいと思っています。

西安交換教員からのメッセージ

交換教員としての一年間

文学部日本・中国文学科 趙小寧（西安外国語大学交換教員）

昨年の四月から今年の四月にかけて交換教員として一年間京都府立大学に赴任させていただいた。短くも充実した1年の中でも特に印象に残っているのは京都の四季の美しさと京都府立大学のみなさんの温かい友情だ。

春の桜吹雪・夏の送り火・秋の紅葉・冬の雪見など四季を彩る美しい古都京都の景色は私には魅力的だ。特に季節ごと変化に富んだ鴨川の景色を毎日のように身近にゆっくり堪能できるのは贅沢に思われてしまうほどだ。北山・鴨川・植物園に囲まれた緑のあふれる静かで落ち着いた府立大学の雰囲気が大好きだ。

一年の間いろいろな出会いもあったし多くの方々にお世話になった。日本に来た最初のころ、ホームシックで落ち着かなかったり道に迷ったりしたことがあった。宿舎のことや仕事のことなどで慣れないことや困ったことがたくさんあった。その際いつも親切に教えてくれて、支えてくれたのは府立大学の文学部の皆さんだった。学生の研修旅行や餅つき大会などにも参加させていただき、楽しい思い出を作ることができた。この思い出はいつになっても、思い出すだけで心を温めてくれるものだ。

仕事は1年生5クラスと2年生1クラスの中国語Bを担当させていただいた。日本の大学生は勉強にはあまり熱心ではないと思っていたが、京都府立大学の学生がこのイメージを変えてくれたのだ。授業でまず感心したのは学生の真面目さと高い習得力だ。普段の授業では府立大学の学生は中国の大学生よりも活発に授業活動に参加していて、自習も積極的にしている。中国語の勉強は初級学習者にとって発音が一番の難関だ。「中国語は発音良ければ半分よし」と思う私は学生に少しでもきれいな発音を身につけてほしいと期待していて、最初から日々発音を厳しく指導しているが、頑張って正しい発音を身につけるためにわざわざ研究室に何度も足を運ぶ学生には感心している。感心すると同時に教師としての教えがいが実感した。授業するのはいつも楽しくて時には時間を忘れてしまうほどだ。

府立大学文学部の先生方のおかげで一年を充実にご過ごすことができた。学びも発見も多かった一年だった。これから今までの経験を十分に活かして京都府立大学と西安外国語大学の友好関係のために些細でありながら、力になりたいものだ。一年間の交換教員の貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました！



西安外国語大学からのメッセージ

西安外国語大学派遣院生 O. K

西安外国語大学に派遣されて半年になります。多様な学生たちとの交流を通じて、こちらが日本語や日本文化について教えるだけでなく、教えられること、考え方や習慣の違いに互いが気づき、理解を深めることも多いです。授業以外にも、餃子パーティーや西安観光など、楽しい思い出がたくさんできました。教職員の皆さんも温かく迎えてくださいました。交換教員や大学院生として府大に来られた経験のある先生が多く、いろいろ親身に教えてくださったり、学院長や学長からも気遣いのことばをかけていただいたりと、とても恵まれた環境です。長い歴史を持つ両校の交流を西安外大の方でも重視されているようです。これも両校の先生方、先輩方がこれまで誠実で温かな交流を積み重ねてこられたからなのでしょう。学生の中には、将来は日本語教師、通訳、外交官などになって、日中の懸け橋となる仕事をしたいと語ってくれる人も少なくなく、頼もしく、楽しみに思います。

トピックス

京都工芸繊維大学と京都府立医科大学との間で施設利用に関する覚書を締結しました。

本学と京都工芸繊維大学、京都府立医科大学は、平成18年10月に3大学の連携に関する包括協定を締結し、数多くの取組を進めてきました。

これまでの取組を踏まえ、教養教育共同化施設の整備にあたり、より一層の具体的な連携関係の構築に向け、教養教育の共同化及び施設利用を推進するため、平成23年1月25日に3大学、京都府並びに京都府公立大学法人により覚書を締結しました。



就業力育成支援事業について

「地域社会と関わる人間を育てるキャリア育成プログラム」をスタート

文部科学省の平成22年度大学生の就業力育成支援事業に、本学からの申請取組が選定されました。

「大学生の就業力育成支援事業」は、大学・短期大学において、大学内組織の有機的な連携による全学的な体制の下、入学から卒業までの間、実学的専門教育を含む体系的な指導を行うことを通じて、学生の卒業後の社会的・職業的自立が図られるよう、大学の教育改革の取組を支援することを目的として、平成22年度から開始されたものです。

全国の大学、短期大学から、441件の応募があり、180件が選定されました。

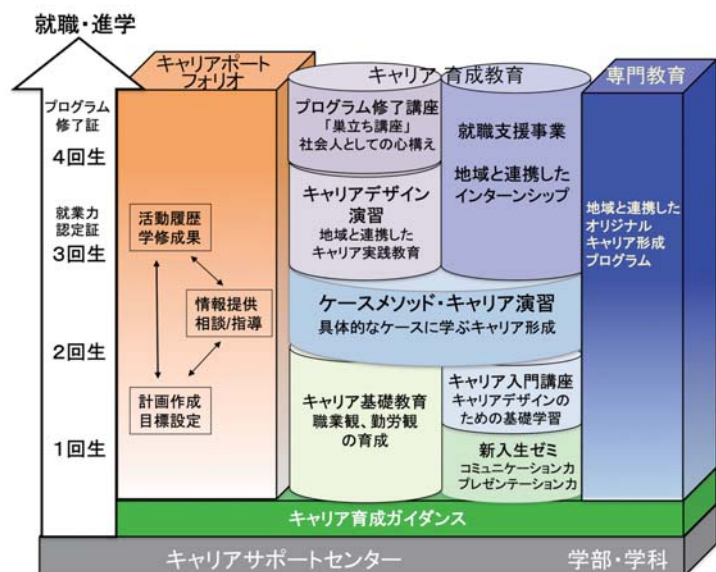
本学の取組「地域社会と関わる人間を育てるキャリア教育～体系的な実用教育で築くキャリアデザイン」では、京都府立大学の理念で謳っている「地域社会に貢献する人材養成」を全学的に実現するために、今日の社会が必要とする人材、すなわち地域社会と国際社会の持続可能な発展に貢献できる、倫理的判断力を持ち調和のとれた働き方・生き方を創造していく人間の育成を目的としています。その目的達成のために、初年次から学生のキャリアデザインをサポートする「キャリア育成プログラム」を新たに構築します。

本取組の骨子は、①地域社会に根ざした生き方ができる人間を育てるために、公立大学である特色を活かし、就業や地域に関わる事例を用いたケースメソッドによるキャリア演習や、京都府地域と連携したインターンシップをはじめとする実用的キャリア育成教育を行う、②「キャリアポートフォリオ」システムによって学生と教職員を結び、学生によるキャリアデザイン、計画的な学修及び自己評価、大学による就職情報の提供と指導を通じて就業に結びつけるためのサポートを行う、③「キャリア育成プログラム」の運営を行う組織として「キャリアサポートセンター」を新たに設置する、という3点から成っています。

「キャリア育成プログラム」は下図に示すように、4年間を通じたキャリア育成教育、地域と連携した各学部の専門教育、キャリアポートフォリオの活用から構成されます。キャリア育成教育では、キャリア入門講座、ケースメソッド・キャリア演習、キャリアデザイン演習、プログラム修了講座を新設し、初年次から全学的な教育を行います。本プログラムでは、キャリア育成到達度をポイント化し、認定基準を満たした学生に対して「就業力認定証」を、卒業時に「プログラム修了証」を交付します。

今回の選定を機に、本学ではキャリア育成推進委員会、キャリア育成プログラム委員会を設置し、キャリアサポートセンターを組織しました。平成23年度の新入生から新たなキャリア教育カリキュラムがスタートします。2～4回生に対しても、キャリアポートフォリオを活用したキャリア育成・就職支援を展開します。これまで以上に、地域・産学と連携し、同窓会・後援会（保護者）などの協働によるキャリア教育・就職支援を進めるために、皆様のご協力、ご支援をお願い致します。

京都府立大学キャリア育成プログラム



任期満了に伴い、竹葉学長が3月31日付けで退任されます。法人化を含めた激動の時期を、府立大学の発展のために先頭に立って尽力して来られました。本当にありがとうございました。なお、次期学長には、文学部の渡辺信一郎教授が就任される予定です。

<学位取得者一覧>

■課程博士

【文学研究科 国文学中国文学専攻】

- ・大賀 晶子 「明代における短篇白話小説の発展、および文言小説との関わりについて」

【公共政策学研究科 福祉社会学専攻】

- ・狗巻 修司 「自閉症幼児の「他者の意図」の理解の発達に関する研究：
愛着対象の形成過程と相互交渉スキルの障害の発達の関連に着目して」

【人間環境科学研究科 食環境科学専攻】

- ・横山 芽衣子 「糖尿病腎症における食事脂肪の有用性に関する研究」
- ・馬引 美香 「Study on Factors for Improvement of Taste Sensitivity during Weight Loss in Obese Females(肥満女性の減量に伴う味覚感受性の改善に関する要因の研究)」

【人間環境科学研究科 生活環境科学専攻】

- ・山田 智子 「郡是製絲株式會社における製糸工場の形成と近代化過程に関する建築史研究」

【人間環境科学研究科 環境情報学専攻】

- ・八木 祐介 「Regulation of plastid transcription by a hybrid system of bacterial-type RNA polymerase and eukaryotic-type proteins (細菌型RNAポリメラーゼと真核型因子の複合型システムによる色素体転写制御)」

【農学研究科 生物機能学専攻】

- ・金弦 知子 「A study of survival mechanisms of commensal bacteria in human gastrointestinal tracts (ヒト消化管共生細菌の生存防御機構の研究)」

【生命環境科学研究科 環境科学専攻】

- ・上町 あずさ 「都市緑化植物テイカカズラ類の分類および交雑に関する研究」
- ・加藤 博 「文化財庭園の保存と活用方針策定への一般国民の協力に関する研究」
- ・原戸 喜代里 「近代京都における大札建造物の下賜過程」
- ・長谷川 祥子 「オフィスや住まいにおける小型室内植物の利用に関する研究」

■論文博士

【人間環境科学研究科】

- ・大淵 貴之 「広葉樹キシラン由来キシロオリゴ糖の製造、構造、物性および生理活性に関する研究」

桜楓講座（春の部）参加者募集

最近のトピックスを交えながら、本学教員がそれぞれの専門分野について分かりやすく解説します。

Aコース 5/20(金) 18:15～19:45 講師：公共政策学部教授 青山 公三

「日本の政策 vs 世界の政策」

Bコース 6/3(金) 18:15～19:45 講師：生命環境科学研究科教授 大谷貴美子

「今日(京)から始めませんか、健口食！」

詳しくは企画室までお問い合わせください。

TEL 075-703-5147 / FAX 075-703-5149 / Email kikaku@kpu.ac.jp

府大広報 No.166 -卒業特集号- 京都府立大学広報委員会 2011.3.25 発行

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 TEL.075-703-5904 FAX.075-703-5149

Email kikaku@kpu.ac.jp